

2024 年度フィリピン研修報告書

野下 智則

① 学習成果

本研修では、日本国内での元非正規滞在者のフィリピン人、マニラで女性の就労支援に取り組む団体の代表、日本向けの送り出しを担う送り出し機関の代表、職員、フィリピンパブへの送り出しをかつて担っていた元プロモーター等、多様な人々にインタビューを行った。また、送り出し機関や送り出し機関のもつ研修施設の見学も行った。そうした研修から学んだことを報告する。

まずフィリピン国内には、労働力の強力な送り出し圧力があるということである。家事労働者向けの送り出し機関では、日本側からの 80 人の募集に対して 1000 人以上の応募があったという。加えてフィリピン出身の移住労働者は、ある国での移住労働を終えて帰国した後、フィリピン国内で有力な稼得手段を見つけることができず、貯金を使い果たしてしまうと再び他の国へと移住労働をすることになる、ということである。

研修中、自分にとって衝撃的だったことを二つ報告する。一つ目は、家事労働者向けの送り出し機関の求人応募者の中に、大卒者がままた見られたことである。二つ目は、日系の自動車製品の工場労働者の月収は、12 時間労働で夜勤込みでも約 4 万円だったということである。フィリピンの人口が日本の人口とほぼ同じであり、2030 年頃までには日本の人口を抜くと言われていること、日本で労働者不足が叫ばれていることを考えると、いかにフィリピンの労働市場が供給過剰の状態にあるかがわかるだろう。

そして労働力不足状態にある日本と労働力過剰状態にあるフィリピンとの間にあるポストコロニアルな関係についても改めて考えさせられることとなった。移住労働者を定住者として受け入れないという日本の入管政策や、日本人男性がフィリピン人の女性との間の子どもの認知を拒否することによって非正規滞在者が生み出され、法的に不安定な状態に置かれているのは、そうしたポストコロニアルな関係の一例だろう。

② 海外での経験

フィリピンには以前私的に渡航したことがあり、今回の研修での渡航が 2 回目となった。以前の滞在では、フィリピンの農村部に行ったこともあり、マニラでの長期の滞在は初めてとなった。日本に渡航経験・長期滞在経験のあるフィリピン人女性と何人も話す機会があった。日本では夜間中学校の学習ボランティアとして、日本国内に滞在するフィリピン人女性と話してきたことと合わせて、来日したフィリピン人女性がどのように帰国し、フィリピン国内でどのように過ごし、場合によっては再来日するのかといった過程の一端をうかがい知

れる貴重な機会となった。

③ プログラム内容

本プログラムでは、8月24日の夕方から8月29日の早朝まで5泊6日の日程でフィリピンに滞在した。初日の夕方にマニラに到着し、日本国内での非正規滞在経験のあるフィリピン人の二家族と合流した。

8月25日の午前中には、マニラで女性の就労支援をしている団体を訪問し、フィリピン政府側の送り出し政策の変遷についてインタビューを実施した。午後には先ほどの二家族にインタビューを実施した。

8月26日にはカトリックの団体が運営するホスピスを訪問し、障害や貧困といった様々な事情で保護されている児童や、高齢者と交流しつつ、ホスピスの取り組みについてホスピスの入所者から話を聞いた。

8月27日には日本向けの技能実習の送り出し機関を二つ訪問した。一つ目の送り出し機関は、バイ湖畔のラグーナの工場地帯の中にあり、主に製造業の工場や建設業の労働者の送り出しを主に行っているとのことだった。二つ目の送り出し機関は、マニラの市街地にあり、日本国内の企業の現地事務所と連携しつつ、家事労働者の送り出しを行っているとのことだった。

8月28日にはフィリピンの労働者の送り出し政策についてインタビューすべく、政府系機関を訪問する予定だったが、マニラ市内の洪水で政府系機関の業務が休止されたため、代わりに、興行ビザでのフィリピンパブ等への送り出しを担っていた元プロモーターへのインタビューを実施した。

④ 進路への影響

私は大学院の博士課程に進学予定で、若年層の性行動に関する研究を行っている。現在の研究では、若年層が十分に性教育を受けていないことによって、女性の自己決定権が侵害されていることがわかっている。今回の研修に参加して感じたのは、そうした性教育の不徹底による女性の自己決定権の侵害は、日本人の大学生同士の男女のパートナー間でのみ起こっているのではなく、日本人男性とフィリピン人女性の間でも起こっているのではないかと、ということだ。日本人男性によるフィリピン人女性の性的自己決定権の侵害は、何も特殊な「移民」問題ではなく、性教育の不徹底から生じる問題であることを感じた（もちろん、出入国管理政策が間に入ってくることで、子どもや母親の法的地位についての帰結は異なってくる）。

こうした本研修での体験を踏まえて、将来的には性教育と日本人男性、移民的背景をもつ母親と子どもについての研究にも取り組んでみたいと考えている。